

平成 15 年 2 月 3 日

平成 13 年度文化政策学部長特別研究費テーマ研究：

『学生たちに「アートマネジメント」の現場を知る機会を与えるレクチャーとシンポジウム・シリーズの開発』に関する報告書

研究代表者： 文化政策学部芸術文化学科、岩渕潤子

本研究は、本学が提案し、地域に向けて発信する文化政策学部の新しい「大学教育」の実践方法とカリキュラム内容を開発し、なるべく多くの学生・市民に参加してもらうことを目的とするものであることから、まず学生と市民一般を対象とした『アートとマネジメントを考える』—SUAC 芸術文化学科・特別レクチャー・シリーズ—と題するプログラムを考案。それに向けて、シリーズに相応しいテーマとその専門分野で活躍する講師を選挙することから始めた。レクチャー・シリーズは本学主催、浜松市の後援を得て、平成 13 年 10 月 9 日から平成 14 年 1 月 15 日にかけて、下記プログラムと講師によってすべて一般に公開された。また、レクチャー・シリーズ、シンポジウム双方の運営には本学教員のほか、多数の芸術文化の学生が参加し、講師たちとの交流を深めることもできた。何より、講師として来訪された方々に本学の存在と教育内容を知ってもらうことができたのは大きな成果といえよう。

また、平成 14 年 1 月 13・14 両日に渡っては『産業化する芸術の可能性』というテーマにおいて公開シンポジウムが開催され、その内容は静岡新聞、並びに中日新聞で大きく報道された。シンポジウムの内容抜粋は平成 14 年 5 月 31 日に都市出版（株）より発行された報告書に抜粋して掲載されている。内容の詳細については次のとおり。

『アートとマネジメントを考える』—SUAC 芸術文化学科・特別レクチャー・シリーズ—
プログラム

- 10 月 9 日（火） 袴田茂樹氏（青山学院大教授/ロシア問題専門）
「ロシア人の精神生活と文化・芸術」
- 16 日（火） 畑中俊彦（クリスティーズ・ジャパン/シニア・ヴァイス・プレジデント）
「オークション・ハウスとその仕事」
- 23 日（火） 藤幡正樹氏（メディア・アーティスト/東京芸大助教授）
「最近興味のあることについて」
- 30 日（火） 野田一夫氏（前・宮城大学長）
「これからの大学、これからの学生」
- 11 月 6 日（火） 松原徳一氏（阪急ホテルズ・会長）

「宝塚歌劇団の運営とホテル経営」

13 日（火） ムルハーン・千栄子氏（ジェンダー・スタディー）

「芸術文化にみるジェンダー意識の国際比較」

20 日（火） 椿昇氏（アーティスト）

「アーティストとしてのサヴァイヴァル」

27 日（火） 伊藤恵氏（ピアニスト）

「ピアニストという仕事」

12 月 4 日（火） 浦上満氏（古美術・浦上蒼穹堂主人）

「美術市場と古美術の世界」

11 日（火） 上山信一（ジョージタウン大学教授・行政評価スペシャリスト）

「文化施設における行政評価の試み」

1 月 15 日（火） 津田和明氏（サントリー・副社長）

「企業と文化」

シンポジウムのプロプログラム内容については下記のとおり：

『芸術と産業の連携・芸術の産業化を考える

—低予算とボランティアだのみの芸術運営のジレンマをどう克服するか—』

主催： 静岡文化芸術大学 後援：静岡県、浜松市

2002 年 1 月 13 日（日）・14 日（振休）、会場： 静岡文化芸術大学講堂、大講義室、小講義室、入場無料

1 月 13 日

午前 11 時 00 分～12 時 00 分： 277 中講義室

「ニューヨーク市に見る産業としての芸術を分析する」

- ・観光資源としての文化施設・芸術産業 — 黒澤行紀（観光研究）
- ・高等教育機関、NPO、商業ベースの芸術との連携 — 稲葉郁子（芸術運営研究）
- ・ブロードウェイ劇場街発展の構造的背景 — 茂木崇（杏林大学講師/
アメリカ地域研究・マスコミ論）

午後 1 時 00 分～2 時 30 分： 277 中講義室

「芸術の産業化に不可欠な人材と市場の育成」

- ・花光潤子（パフォーミングアーツ・プロデューサー）
- ・山口佳子（丹野賢一/NUMBERING MACHINE 制作）

沙弥音・SHAMION マネージャー)

- ・扇田昭彦（静岡文化芸術大学）
- ・伊藤裕夫（静岡文化芸術大学）/モデレーター

午後2時45分～4時15分： 176大講義室
「芸術と関連ビジネスをめぐる著作権の問題」
・伊藤眞（弁護士・弁理士）

午後4時30分～6時： 176大講義室
「美術展・イベントに関する保険の仕組み」
・箱守栄一（美術保険スペシャリスト）

1月14日

午前9時30分～10時30分： 377中講義室
「美術館・博物館評価への取り組み」
・佐々木亨（北海道大学）
・泰井良（静岡県立美術館学芸員）

午前10時45分～12時00分： 377中講義室
「国立美術館・博物館の独立行政法人化は何をどう変えたのか」
・辻村哲夫（独立行政法人国立美術館理事長/
東京国立近代美術館館長）
・竹内順一（東京芸術大学）
・前田富士男（慶應義塾大学）
・尾野正晴（静岡文化芸術大学）/モデレーター

午後1時～3時30分： 講堂
「都市資源としての芸術・文化」
・高階秀爾（美術評論家）
・鈴木隆敏（箱根彫刻の森美術館・館長）
・清水嘉弘（前・東急文化村代表取締役副社長）
・深井晃子（静岡文化芸術大学）
・松葉一清（建築評論家）/モデレーター

*司会・進行：岩渕潤子（静岡文化芸術大学）

午後 3 時 45 分～5 時 15 分： 377 中講義室

セッション 1「美術市場とは何か？ 日本人にとって美術品とは？」

- ・浦上満（古美術・浦上蒼穹堂主人）
- ・畑中俊彦（クリスティーズ・ジャパン/シニア・ヴァイス・プレジデント）
- ・小山登美夫（小山登美夫ギャラリー代表）
- ・荒川裕子（静岡文化芸術大学）/モデレーター

午後 3 時 45 分～5 時 15 分： 378 中講義室

セッション 2「新たな学問としてのアートマネジメント教育の課題」

- ・美山良夫（慶應義塾大学）
- ・北山晴一（立教大学）
- ・大月ヒロ子（ミュージアム・エデュケーター/アイデア代表）
- ・小林真理（静岡文化芸術大学）/モデレーター

＊レクチャー・シリーズ、シンポジウム共に公開にあたって、本研究が学部長特別研究費によるテーマ研究、＜文化政策学部の新しい「大学教育」実践の研究＞の一環であること、芸術文化学科の企画として行われることが明記された。シンポジウムは静岡県、浜松市、静岡新聞社の後援を得ることができた。